

読賣新聞

2009年(平成21年)

5月12日 火曜日

海上保安庁は11日、2005年8月に宮城県沖で起きた地震で解消していたプレート(板状の岩盤)のひずみが再び発生し、海底が西北西に年間6・5センチの速さで動いていると発表した。海保は「プレートのひずみが解消してから、再び

宮城県沖プレートひずみ再発生

蓄積が始まるまでの過程を海底でとらえたのは、世界で初めて」としている。地震発生のメカニズムの一つは、海洋プレートが陸側のプレートの下に沈み込

地震で解消後
年6・5センチ移動

む際に境界でひずみがたまり、それを解消しようとするために起きる。宮城県沖の地震もこのパターンだった。海保では2000年か

ら、海底に基準点を設けて海底の動きを観測しており、現在、測量船を使って、太平洋側の16地点でデータを集めている。このうちの1地点が宮城県沖の地震の震源近くにあったことから、今回、ひずみをとらえることができた。